

(12) 金にカンサンする

۱۲۷۰

才 事前の予定通りに行動できるのが旅行で、思いがけないことに
出会うのが旅。

[illegible]

99

るい」と筆者が考えるのはなぜか。次の文の空欄にあてはまる言葉を、それぞれ本文中から二字で抜き出せ。

学習の手引き②の1

売る人と買う人が、僅かな①や品物のことで長い②をかけて③を競って交渉する姿に、「近代」の精神と異質なお金や②に対する④がうかがえたから。

①	②	③	④
---	---	---	---

7 「お金と同じ動詞を使って考える」(二四四・1)について説明した次の文の空欄に、あてはまる言葉を答えよ。

脚問

「近代」の精神では、時間を①のではなく、お金と同様に少しでも②に使わなければならないと考える。

①	②
---	---

8 『忙しさ』の無限連鎖のシステム(二四五・12)とは、どのようなことか。次の中から適当なものを一つ選べ。

学習の手引き④の1

ア 時間厳守を最優先にすると、僅かな遅れも許容できず、暴動を起こしても当然だという発想に至ってしまうということ。

イ 競争に勝つためには他の人以上に働かねばならず、豊かさを求める限り、現代人は多忙さから解放されることはないということ。

ウ 現代人が時間に追われる生活を送っている原因は、「ビジネス」という言葉の語源そのものによって示されているということ。

エ どこまでも多忙になっていくのが、お金や時間を効率的に使うことを前提とする資本主義社会の構造的な本質であるということ。

オ 忙しさが現代社会において必然的なものである以上、非西欧圏の途上国にもいずれは波及することになるということ。

--

9 「遠い鏡に映された狂気。」(二四五・12)の「遠い鏡」とはここでは何を指すか。次の中から適当なものを一つ選べ。

脚問

ア 現代の日本や欧米とは異なる感覚や価値観を持つ国。

イ イスラム圏とは異なる価値観を持つ現代の日本。

ウ 僅かな遅れを許さない日本のビジネスマンの時間感覚。

エ 公共の交通機関が十分に発達していない途上国。

オ 海外の事件や出来事を伝える報道メディア。

--

10 「三本針もふつつ」(二四六・12)とは、どういうことを意味しているか。「多忙」という言葉を用いて、三〇字以内で答えよ。

脚問

11 「こういう感覚」(二四七・1)とは、どのようなものか。次の中から適当なものを一つ選べ。

ア 誘いもしない人が、遠慮せずに他人の家に来てもよいという感覚。

イ 家族に呼ばれた死者が、孤独な死者を誘ってもよいという感覚。

ウ 死者を彼らが生きていた時と同じように扱おうとする感覚。

エ 死者たちと楽しく過ごすために、多くの時間と費用をかける感覚。

オ 直接は縁のない人のためのプラスワンを、無駄と思わない感覚。

--

12 「何かある本質的なもの」(二四九・3)と同じことを意味する部分を、これ以降の本文中から二五字以内で抜き出せ。

--

13 「積極的な言い方」(二五〇・三)で表現し直すことによって、筆者はどんなことを伝えようとしているのか。次の中から適当なものを一つ選べ。
脚問

ア 社会の根本的变化は、すでに避けられないところまで来ているという現実認識を広めなければならないということ。

イ 今こそ新しい社会や生き方を構想し、それを実現していこうとする意欲とエネルギーを発揮すべきだということ。

ウ 対立や争いを克服するために必要な、国際的に一致できる社会的理念を異文化理解で成し遂げられるだろうということ。

エ 今後の社会のあり方を考えるにあたっての、時間的・精神的ゆとりはまだあるだろうということ。

オ 変えていくべき社会の姿を考えるにあたっての、手本となりうるインドやメキシコの例に習おうということ。

14 「自明性の檻」の外部に出てみる」(二五〇・八)ことが、今の時代になぜ必要なのか。次の中から適当なものを一つ選べ。

ア 現代社会がさまざまな面で行き詰まり、社会のあり方そのものを根本から見つめ直し、再構築しなければならなくなっているから。

イ 近代化の過程で我々が切り捨ててきたものを回復することだけが、人間社会にとって重要であることが明らかになってきたから。

ウ 世界が更に発展するには、西欧的な文化とそれ以外の文化との融合などといった、新たな発想が必要になってきたから。
エ 今まで当然と思い込んできた日本の価値観が、外国からはどう見られているかを知ることが、真の国際化には欠かせないから。
オ 今も絶えない国際的な紛争や対立を平和的に解決するには、相互理解や交流を推進する必要があるから。

15 「人間の可能性」(二五〇・10)とは、ここではどのような内容を言うのか。次の中から適当なものを一つ選べ。

ア 人間は、社会とともに今後どのようなようになっていくのか。

イ 人間は、いつ「自明性の檻」から脱することが出来るか。

ウ 人間は、どのような価値観を持って生きることが出来るか。

エ 人間は、どこまで合理主義に徹することが出来るか。

オ 人間は、更に豊かで進歩した時代を新たに築くことができるか。

16 タイトルの「鏡の中の現代社会」とは、どのような意味を表したのか。「…によって…」という形で、四五字以内で説明せよ。

1 二項対立をつかみ、そこから導かれた考察を読み取る

二項対立とは、二つの概念や事柄、考え方などが対立または矛盾する関係にあることを言い、主体と客体、善と悪、西洋と東洋などが挙げられる。評論では、筆者の主張をそれと対立する従来の考え方や一般の通念との対比を通じて明確に示したり、二つの対立する概念や物事、考え方を用いて論を展開し、自らの意見を述べたりすることが多い。対立する事例、概念や考えを端的に表す言葉（キーワード）をつかむことは、評論の構成と論旨を読み取るうえで大切である。

二項対立の展開例

○二つの時間

・過去から未来に直線的に → ・らせん状に繰り返しながら
流れていく時間 流れていく時間

・時計の時間 ↔ ・自然（季節）の中の時間
・進歩と発展の時間 ↔ ・生活の時間・人間の時間

○意見―現代は、価値観や生き方において直線的な時間が重視されがちだが、人間らしい豊かな生き方を取り戻すために、らせん状に流れる時間を見直すべきだ。

2 「鏡の中の現代社会」の二項対立

「鏡の中の現代社会」は、現代社会を捉える方法をまず提示し、豊富な見本例を交えて二つの社会の違いと特質を前近代社会と近代社会という二項対立を用いて考察し、そこから筆者の主張を導き出している。

本文の展開の仕方をまとめると以下のようなになる。

序論 考察方法の提示

異質の世界を鏡として自分の生きる現代社会を捉える方法

本論 二項対立による考察

前近代的社会(現代と異質の世界)と近代・現代社会の違いと特質

結論 筆者の意見

現代社会の〈自明性の檻おり〉の外部に出て人間のつくる社会の可能性を考え、近代の後の新しい社会のかたちを構想し、実現する。

3

問 《センター入試タイプ》

この文章の展開と論旨の説明として適当なものを、次の中から二つ選べ。

①〈自明性の檻わなからの解放〉という問題をまず提示したうえで、具体例を示しながら前近代的社会から改めて近代社会を見つめ直すことの意義を説いている。

②前近代と近代の特質について対立的な具体例を挙げることをとおして対照的に示し、両者を統合することによって近代社会を乗り越えることの難しさを強調している。

③異国文化に対する共感的な思いや特質を述べることをとおして、近代社会の弱点を浮き彫りにするとともに、具体例を示すことによって前近代的社会に対する批判的な見解を補強している。

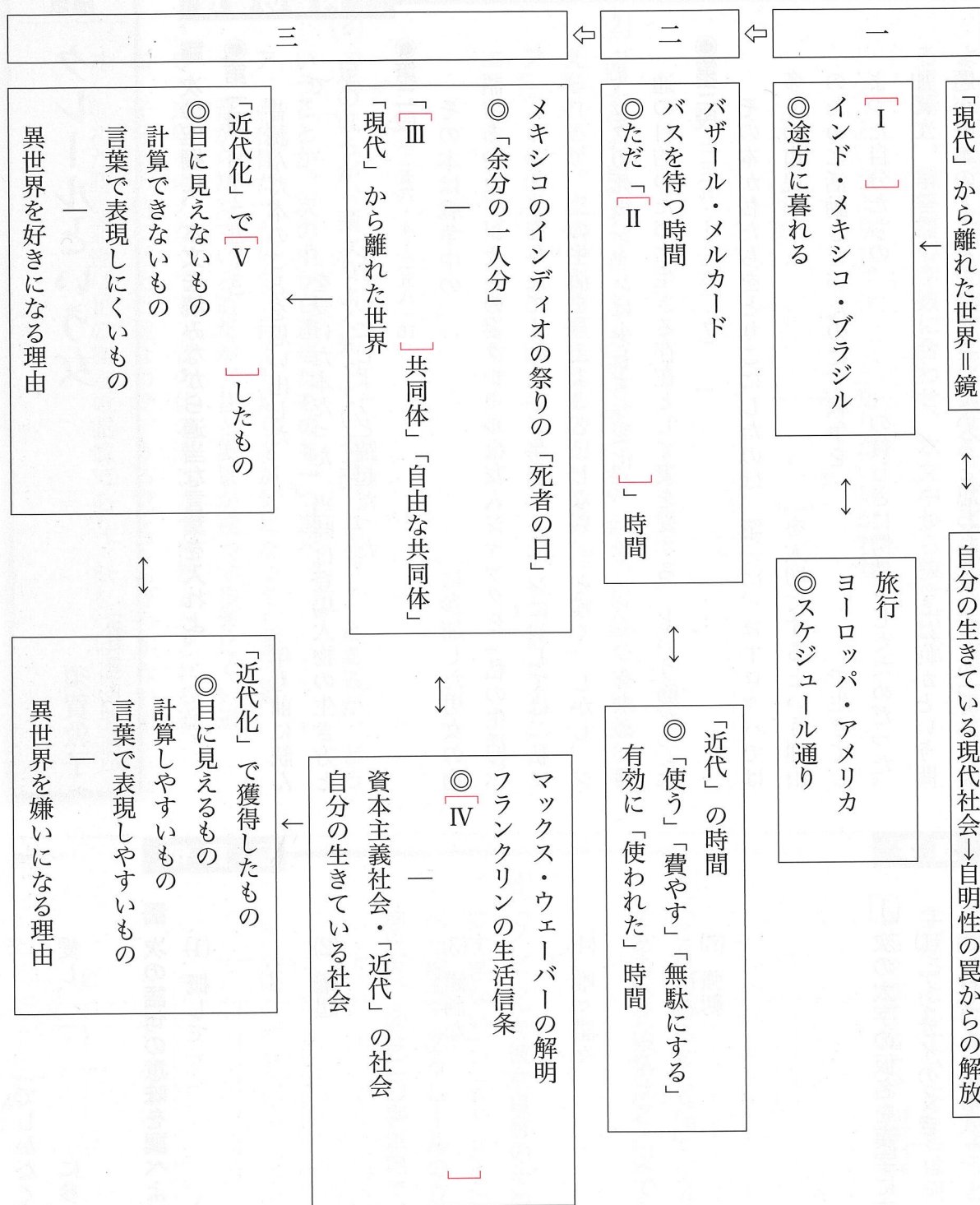
④近代社会を映し出す鏡としての前近代的社会の具体的な生活文化や習俗を取り上げることによって、自明とする従来の価値観や世界観を再確認することの必要性を述べている。

⑤前近代と近代という相反する社会を比較し、近代の合理的精神に対する批判的な見解を示す一方で、前近代的社会の一見ネガティブな価値観を知ることが近代を乗り越える新しい社会を構想する力になることを述べている。

⑥前近代的社会と近代社会のそれぞれが持つ課題や問題を提起して具体例に基づいた考察を行い、前近代の後進性と近代の先進性に対しては懐疑的な見解を打ち出している。

4 構成図（二項対立を中心に）

■ 次の空欄に、本文から適当な言葉を入れよ。
◎は考察を表す。



5 考え方

「4 構成図」の空欄の解答は、二項対立をもとに考える。Ⅰは「旅行」との対比で「旅」が、Ⅱは「使われた時間」と対照的な「生きられた」が、Ⅲは「余分の一人分」から「開かれた」が入る。Ⅳは時間を貨幣と同じに考える「Time is money」または「時は金なり」が、Ⅴは「目に見えないもの」以下は近代化で失われたものであり、「喪失」があてはまる。

3の問の解説。①は本文の論の展開の概要を示しているので正解。⑤は「近代の合理的精神に対する批判的な見解」と「前近代的な社会の：新しい社会を構想する」は論旨に合っているので正解。②は「両者を統合することによって近代社会を乗り越える」が、③は「前近代的な社会に対する批判的な見解の補強」が、④は「従来の価値観や世界観を再確認することの必要性」が誤り。⑥は前半、後半とも本文の内容とは違っている。